

# アニマルランド NEWS

わんぱーくこうちアニマルランド  
№99 Apr 2021



- ・ 四国産ニホンカモシカの現状
  - ・ 土佐清水の森で生きる いきものから学ぶ
  - ・ 夢がかなった飼育員



- 10/10 動物慰霊祭(スタッフのみ)開催
- 11/5～ 鳥インフルエンザ感染予防のため  
バードハウス閉鎖、トビ、コールドック  
展示中止
- 11/16 カラスバト搬入
- 11/22 いきもの講座
- 12/10～1/24 新型コロナウイルス高知県特別警  
戒のためアニマルギャラリー閉鎖  
モルモットのふれあい中止
- 12/17～2/2 えと展 ギューツとウシ年 開催
- 12/27～ 干支の引継ぎ式 動画配信
- 2/4～ 動物紹介 開始

# 10月から3月



きれいになったトイレ

3月にトイレの改修をおこないました。



いきもの講座

いきもの講座を屋外でおこないました。



えと展



カラスバト

繁殖計画のために  
大島公園より来園しました。

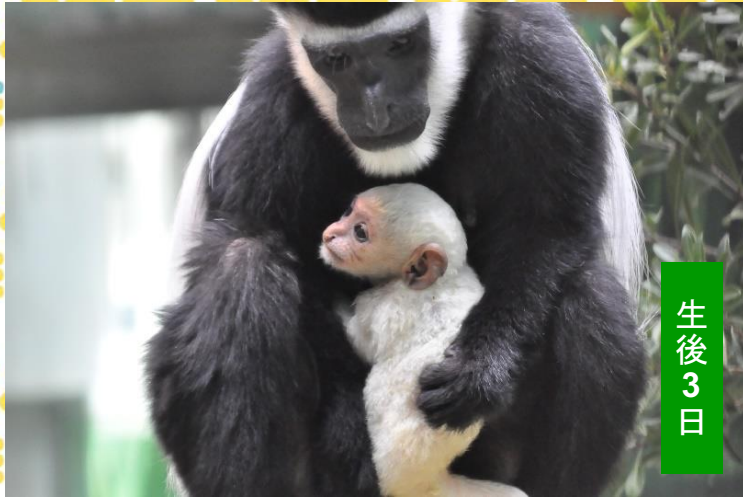
3月からモルモットの  
赤ちゃんが誕生しています。



モルモットの赤ちゃん



# のできごと



生後3日



生まれた日



生後半年

1歳 おめでとう!!



生後3ヵ月

3月19日に1歳になりました。  
アビシニアコロブスのゴーです。  
人工哺育になってしまうかと心配しましたが、母親のフィフィがしっかり育ててくれました。毎日、元気に過ごしています。



生後8ヵ月



1歳



# 四国産ニホンカモシカの現状

## 【ニホンカモシカとは】

ニホンカモシカとは、世界で日本にだけ生息している動物で、本州（中国地方を除く）、四国、九州に広く分布する偶蹄目ウシ科の動物です。おもに山岳地で生活をしており、実に様々なものを採食します。広葉樹の新芽やドングリなども好んで食べ、ササの葉やフキノトウを食べることも知られています。単独でなわばりを持ち、両目の下にある眼下腺という器官から出す、酢のような鼻を突くにおいがする粘液を樹木にこすり付け、なわばりをアピールします。2歳ほどで性成熟し、



秋冬の時期に発情のピークを迎えます。この時期に繁殖活動をおこない、妊娠7か月ほどで基本1個体、まれに2個体を出産します。野外では、時折なわばり内で2個体以上が同じ所で見られることもありますが、ほとんどが親子関係です。子供は生後2歳になる頃には、多くが親の元を離れ、新しいなわばりを持ち生活します。メスはなわばりの環境が安定していれば、そこから出ることは生涯ないと言われています。

## 【ニホンカモシカの歴史】

ニホンカモシカは、国の特別天然物として知られていますが、古くは狩猟獣として人気がありました。山間部での生活において肉は貴重なたんぱく源であり、毛皮は防寒具として活用されました。ニホンカモシカは警戒心が弱いのか、おっとりしているのか定かではありませんが、私が初めて野外観察について行った時のことです。ニホンジカは隣山のふもとで、かすかにおしりが見えたぐらいの距離でも逃げ出しましたが、ニホンカモシカは足元すぐの崖下、距離として10メートルほどの距離でたたずんでいたことを、鮮明に覚えています。このような性格のため、狩猟によって激減したのではないかと思います。ニホンカモシカが狩猟圧のため、明治以降に個体数が大きく減少したことを受け、大正14年には狩猟獣から除外されることになりました。その後の昭和9年に国の天然記念物になりました。その理由として、海外のカモシカ類が生息地の環境に適応し、大型化など独自の変化をしていることに対して、ニホンカモシカは古い形態を残しているため、世界的に貴重な生き物であることが認められたことが記されています。このことからニホンカモシカは、「氷河期を生き抜いた動物」といわれることもあります。しかしその後も密猟が続いたため、対策の一つとして、昭和30年に国の特別天然記念物に変更されています。

## 【四国産ニホンカモシカとは】

四国産ニホンカモシカとは、種名ではありません。動物園関係者およびニホンカモシカ関係者の間で使われている呼び方です。四国と九州のニホンカモシカは生息数が少ないことや、本州に生息するニホンカモシカとはいくつかの差異が認められていることから、環境省が「保護に留意すべき地域個体群」に指定し、他地域のカモシカとは別として扱っています。本州産のニホンカモシカと四国産のちがいとして、だれもが気付くのが体の大きさです。体高で本州産より15cm(平均)程低く、体重は10kg近く少ないです。四国産でも稀に30kgを超える個体は見つかりますが、だいたいは26～28kg程度で、30kg台の後半などは、まず見ることはありません。ほかにも体色の濃淡やツノの反り返りの強さなどに違いがあり、特に目の虹彩の色の違いははっきりしています。四国産が濃い茶色をしているのに対して、本州産は明るいオレンジに似た色をしています。また性成熟については本州産より明らかに早く、オスは生後8か月、メスは1才の秋には高い確率で性成熟をすることがわかっています。



## 【ニホンカモシカの飼育について】

現在当園以外では、広島市安佐動物公園、神戸市森林植物園、とくしま動物園、恩賜上野動物園で四国産ニホンカモシカを見ることができます。アニマルランドでは1997年にとくしま動物園に保護収容された幼獣のオスと、当園に保護収容されたメスで飼育を開始し、現在7個体を飼育しています。前任のカモシカ担当者が集めた野外データを踏まえ、青草と固形飼料を主軸としたエサを与えています。また、飼育員が動物と同じ部屋に入る直接飼育、夜間寝室収容を行っています。当初幼獣からの習慣づけでないと、このような飼育方法は強いストレスを与え、飼育管理には不適かと思われました。しかし、2015年に成獣で保護されたメスでも同様の飼育方法を行い、現在までに2回の出産に成功し健康状態も良好であることから、飼育管理において有効な方法であると考えています。

飼料は主なものを上記しましたが、実に嗜好性に個体差があり、他の個体は食べるのにこの個体だけは食べないといったことがよく見られます。小松菜はまず食べない個体や、固形飼料は基本的に完食しない個体など様々です。もっとも不思議に感じたのは、青草の食べ方についてです。私のイメージとしてのニホンカモシカの嗜好性は、木の新芽や青草の穂先など、柔らかい部分が良く好まれると思っており、たしかに多くの個体がそのような傾向が見られたのです。しかし過去1個体だけですが柔らかい部分を与えるといくらか残す傾向が見られたので、あえて固そうな部分のみを与えてみました。すると、きれいに完食していました。本来ニホンカモシカは広葉樹を中心とし様々なものを食べることが知られ、野生死亡個体の消化管内容物にはササなども見られます。実際、獣舎の清掃作業中に近くに来て、竹ぼうきの小枝を食べようとするのが何度もあり、また展示場内の雑草を採食している所が確認できています。一方で落ち葉などはほとんど食べないことから、本来の食性がうかがえます。

## 【四国産ニホンカモシカの現状】

古くは四国全域に生息していたのではとされている四国産ニホンカモシカは、現在も準絶滅危惧種（高知県レッドデータブック2018）に指定されています。過去には絶滅が心配されるほど個体数が減少した経過があり、徳島県と高知県の県境にひっそりと生息していたのが20年ほど前の状態です。その後、国の特別天然記念物に指定されたことの効果が出始めたのか、生息地の環境変化の影響なのかは定かではありませんが、ぐんぐんと個体数が増加し、2010年ごろには1600頭（推定）までに個体数が回復しています。現在では分布域も広がり四国4県にまたがり生息が確認され、高知県では高知市内の山間部でも確認され、愛媛県で絶滅種となっていたニホンカモシカが絶滅種から外れることとなっています。

四国4県の広い生息地を持つことで、四国産ニホンカモシカの今後は安心できそうに見えますが、果たしてそうなのでしょうか。四国は森林率が高く緑豊かな環境であり、高知県は森林率国内トップの85%を誇ります。しかしながら四国内は人工林率が高く、高知県においては佐賀県に次いで2位の65%です。つまりはスギやヒノキなどの針葉樹が多く、カモシカが好むブナやカシなどの広葉樹の林が少なくかつ分断されています。カモシカはなわばりをもち単独生活する動物であるため、急激な分散により雄雌の出会いの機会の減少と繁殖率の低下が懸念されます。それより分散した先に、安定した生息環境を確保できるのでしょうか。このような現状の中、カモシカの確認範囲が広がっていることについては、今後の個体数の推移に注意することが重要です。一方で生息域外保全において、多くの個体数を確保することを強く望みます。

（山崎博継）



濃い茶色をした虹彩



母子 生後4日目



# 土佐清水の森で生きる いきものから学ぶ



サンショウウオとわたしが出会うきっかけは、世間は1999年から2000年21世紀へ入る空前のミレニアムフィーバーでたいへん盛り上がっていた時代ー。

高知市立動物園・わんぱくこうちアニマルランドの職員となり、念願の動物園人としての道を歩みはじめました。当時、高知県レッドデータブック動物編2002のなかで、ほ乳類分野・ニホンカモシカを担当した先輩職員がたまたま情報を耳にしたそうです。「おもしろそうなサンショウウオがおもしろいぜよ！」そのキーワードが頭からはなれず、ただただ好奇心で現地へ向かったことからトサシミズサンショウウオストーリーがはじまったのです。その場所は四国南西部の幡多地域で、豊後水道をへだてれば九州・大分県と隣合わせに位置し、坂本龍馬と並んで土佐藩が生んだ幕末の偉人「ジョン万次郎」が生まれた土佐清水の地です。青い空と雄大な黒潮の海が広がり、足摺岬や海洋館SATOUMI、海底館。また土佐清水サバなどが有名です。海のイメージが強い土佐清水市に、まさかサンショウウオが棲んでいるとは思っていませんでした。

海岸線から30分ほど車を走らせた森のなかで、人知れずひっそりと暮らすイモリのようなへんないきものと出会いました。はじめて手のひらの上で、こちらを見つめるつぶらな瞳に生命の力強さを感じたこと、いまの動物園人としての原動力となっています。

野生の姿と動物園どうぶつたちと向き合うことで、小さな変化から四季の移り変わり、食性など五感が豊かになります。一体なにをすれば目の前にいる動物たちをさらに幸せにできるのだろうか？日々試行錯誤しながら楽しんでいます。

いまは、高知の子どもたちへ何気ない好奇心と自然教育を養うきっかけづくりのため、園内ガイドや出前授業などをおこなっています。

今年もトサシミズサンショウウオが産卵そして孵化がはじまりました。

★動物園でまもることを「生息域外保全」★土佐清水の現地でまもることを「生息域内保全」といいます。この貴重ないきものをまもる活動は、21年目を迎えています。

★トサシミズサンショウウオ *Hynobius tosashimizuensis* 国内希少野生動植物種  
土佐清水市の天然記念物に指定(2017) 翌年私たちによりオオイタサンショウウオから種が分かれ新種となりました(2018) 大きさ：12cmほど くらし：森の湿地環境周辺

(吉川貴臣)







# 夢がかなった飼育員



2019年8月からアニマルランドで働いています。物心ついた頃から動物が好きで、自宅でいろいろな生き物を飼育していました。現在も犬2匹、モルモット2匹、亀10匹を飼っています。

小学校4年生、5年生の時にはアニマルランドで開催しているサマースクールに参加し、2年ともシマウマのグループになりました。高校生の職場体験でもアニマルランドに来ました。その時もシマウマの掃除などをしたので、シマウマに縁があるなあと思いました(笑)。その他にもツキノワグマ、ヤマアラシの掃除や餌作り、トビのトレーニングも体験しました。いつも遊びに来ていた動物園の裏側や、飼育員の仕事を大変さや楽しさ、動物の生態、どうしてこの場所にエサを置くのか?などいろいろなことを学べてとても面白かったです。

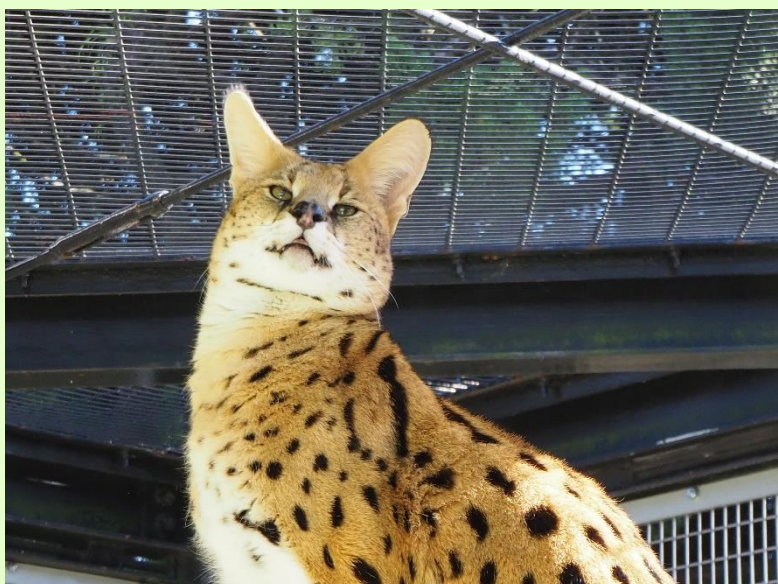
その数年後にまさかアニマルランドで働き始めるとは思ってもいなかったです。現在担当している動物はヤギ、モルモットなどいるふれあい広場、サーバルキャット、タヌキなどがいる小獣舎とフラミンゴです。

最初はヤギにとっても苦労しました。ゆずという若いヤギに頭突き<sup>ずつ</sup>をほぼ毎回されていたので、私の足と腕はあざだらけでした。膝に頭突きをされた時は膝が割れたと思うくらい痛かったです……。頭突きにもいろいろな意味があると知り、観察しているとだんだんわかってきました。機嫌が悪い時、お腹が空いている時、遊んでほしい時など頭突きの仕方が違います。鳴き声も最初は全て同じに聞こえていました。ですが、観察していくと異なる鳴き方や声で鳴いています。今はお腹が空いた時や、かまってほしい時にたまにされます。前より回数が減ったので少し寂しく感じてしまいます(笑)。

また、モルモットの妊娠、出産はいろいろな出来事がありました。モルモットの妊娠期間は約60日と長く、母親のお腹の中でしっかりと成長して生まれてきます。毛と歯が生え、目が開いています。子どもの数確認をするためレントゲンで撮影すると平均では2~3匹入っていますが、1匹の母親に5匹も子どもがいた時は驚きました。ですが全てのこどもが元気に生まれ、育つとは限りません。何度もそのような経験もあり、命について改めて考えました。

約1年半働いていますが毎日新たな発見があり楽しいです。動物たちからはとても多くのことを学びました。私は会計年度職員ですので4月からは別の仕事へ就きますが、大好きなアニマルランドでまた働きたいと思っています。

(志茂玲奈)



サーバルキャットのシャア



モルモットの親子





ぽかぽか陽気の3月。談笑しながらテンを見ている3人をキャッチ☆

左から

本間さおりさん

ひなた

陽菜葵ちゃん(4ヵ月)

岡林美緒さん

本間さおりさんと陽菜葵ちゃんは愛知県からの帰省です。お友達の岡林さんと一緒にご来園。楽しそうに会話されてるのが印象的でした。お母さんが楽しいと陽菜葵ちゃんも楽しいね♪

## 4月から9月のイベントとお知らせ

開催中 4月4日(日)まで

わんぱーくこうちまつり

4日(日)はイベントもりだくさん♪

4月4日(日) 13:00~15:00

アニマルランドクイズラリー 先着200名

参加者にはカブトムシ幼虫引換券もプレゼント  
引き換えは5/3~5/5の来園時になります。

(小学生以下1人1枚)

7月22日(祝・木)~8月31日(火)

夏の企画展 開催

4月7日(水)、8月11日(水)

※臨時開園

5月6日(木)

※振替休園

日・祝 14:30~

(裏側探検隊のある日曜日は前日の土曜日に変更)

ワンポイントガイド

動物の解説を飼育スタッフがおこないます。

カブトムシすもう大会、サマースクール、敬老イベント、移動動物園などの開催は新型コロナウイルス感染予防対策のため未定です。決まり次第ホームページ、Facebook、園内掲示などでお知らせします。

### ふれあい広場開放時間

2021年4月1日から以下の時間に変更します。

・10:30~12:00

・13:00~14:30

7月~9月は動物が暑さで弱ってしまうため、ふれあい広場はお休みします。

表紙「ホオジロエボシドリ」

2021年4月1日発行

発行・わんぱーくこうちアニマルランド

〒781-8010 高知市棧橋通6-9-1

TEL088-832-0189 FAX088-834-0929

Eメール kc-171204@city.kochi.lg.jp

編集 久川智恵美

<http://www.city.kochi.kochi.jp/deeps/17/1712/animal/>

アニマルランドニュース 4,10月の年2回発行

ホームページでも配信中

わんぱーくこうちアニマルランド

検索